三加和町文化財調査報告　第13集

西光寺跡

～県営板楠地区担い手育成基盤整備事業に伴う発掘調査～

1997

熊本県玉名郡

三加和町教育委員会

三加和町文化財調査報告　第13集

西光寺跡

～県営板楠地区担い手育成基盤整備事業に伴う発掘調査～

1997

熊本県玉名郡
三加和町教育委員会

調査地周辺

排水溝跡

ホリ跡

序

役場周辺の圃場整備が「県営板楠地区担い手育成基盤整備事業」として、平成９年度から本格的に着工しました。

その事前調査として、平成８年11月県文化課に試掘調査をお願いしましたところ、西光寺地区から柱穴・土壙などの遺構が確認されましたので、本年６月から本調査に取り組むことになりました。

調査は、試掘調査の結果遺構が確認されましたので、土盛り工法への変更を町農林振興課を通じて県玉名事務所にお願いし、了承していただきましたので、排水溝部分のみを行うことにしました。

現在、西光寺というお寺はなく、県指定の「薬師如来坐像」を安置する薬師堂だけが、地元の方々により守られており、西光寺の寺域の一端でも解ればと思いましたが、はっきり西光寺に伴う遺構と断定できるものはありませんでした。しかし、排水溝やホリ跡など祖先の生活痕跡を確認することができました。

本町での圃場整備事業はこれから本格化しますので、今後も各所での調査が予想されます。県玉名事務所・県文化課・三加和町土地改良区・地権者など関係者各位には、いろいろご迷惑をおかけするかと思いますが、ご協力をよろしくお願い致します。

平成　９年　９月３０日

三加和町教育長　今　村　憲　夫

例　　言

1．本書は、熊本県宮板楠地区担い手育成基盤整備事業に伴い、平成９年度に実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。

2．調査は、熊本県の委託により、熊本県教育庁文化課の協力のもと三加和町教育委員会が行い、黒田裕司が担当した。

3．遺構の実測は、文化財環境整備研究所に委託した。

4．出土遺物は、三加和町教育委員会で保管している。

5．遺跡の位置を国土座標で示すと、薬師堂前の基準点でＸ＝6271.811、Ｙ＝-35036.116で、標高は34.778ｍである。

6．本書の執筆・編集は黒田が行った。

本　文　目　次

第Ⅰ章　序　説……1
　第1節　調査に至る経過……1
　第2節　調査組織……2
　第3節　調査経過……2
第Ⅱ章　遺跡の立地と環境……5
　第1節　遺跡の立地……5
　第2節　歴史的環境……5
　第3節　西光寺の歴史……5
　　1．西光寺の歴史……5
　　2．薬師如来坐像……7
第Ⅲ章　調査の成果……8
　第1節　試掘調査の成果……8
　　1．試掘調査の概要……8
　　2．出土遺物……9
　第2節　本調査の成果……9
　　1．調査の概要……9
　　2．遺構と遺物……9
　　(1)遺構……9
　　①排水溝……9
　　②ホリ跡……10
　　③柱穴……10
　　(2)遺物……10
第Ⅳ章　まとめ……10

　報告書抄録……12

挿　図　目　次

第1図　調査区周辺地形図……4
第2図　周辺遺跡分布図……6

第３図　遺構配置図 …… 別添
第４図　排水溝実測図 …… 別添
第５図　ホリ跡実測図 …… 別添

表　目　次

第１表　周辺遺跡一覧表…… 6

写　真　図　版　目　次

図版１　(1)調査区周辺
図版２　(1)調査区全景（西より）　(2)遺構検出状況
図版３　(1)排水溝検出状況　(2)排水溝埋め石近景
図版４　(1)ホリ跡検出状況　(2)ホリ跡埋め石近景
図版５　(1)柱穴検出状況　(2)柱穴発掘状況
(3)柱穴発掘状況近景
図版６　(1)薬師如来坐像　(2)和尚供養塔

第Ⅰ章　序　　説

第１節　調査に至る経過

平成７年９月８日付けで、三加和町農林振興課から県営板楠地区担い手育成基盤整備事業（29ヘクタール）に伴う文化財等の協議書が提出された。教育委員会では、９月13日に文化財保護委員会を開催し、協議を行った。その結果、①阪和電子工業の敷地内が、約400年前の正念寺跡にあたり、その南東側に寺跡が延びている可能性がある。②西光寺薬師堂のすぐ裏から西側一帯に予定されている区域は、西光寺跡の周辺地域に当たるため確認が必要であろうと９月14日付けで回答した。

その後、12月11～15日にかけて県文化課により踏査が行われ、「遺物は採集できなかったが、施工予定地内に中世寺院の跡があるという伝承があり、それに関する遺構やその時期の村落跡が包蔵されている可能性が高いので、試掘調査が必要である。」との通知が平成８年１月８日付け教文第1365号で町教育委員会・熊本県玉名事務所耕地課などに出された。

この通知に従い、平成９年度に工事着工を控え、平成８年11月22日に県文化課により試掘調査が実施された。試掘は、重機を用いてバケット幅のトレンチを入れる方法が取られた。調査結果については、平成８年12月５日付け教文第1589号で町教育委員会・県農政部に報告されている。それによると、薬師堂裏については耕作土の直下から柱穴・土壙などの遺構が確認されたため、確認面に工事がおよぶ際は本調査が必要ということであった。そこで、町農林振興課に設計変更をお願いしたところ、土盛り工法に変更してもらえることになった。

平成９年度になると、４月24日付け玉名耕第651号で発掘調査依頼があり、４月30日付け三教社第117号で了承の回答をすると同時に予算算定書も同封し、協議に入った。５月１日には、玉名合同庁舎において調査について県文化課を交え、玉名事務所耕地課・町教育委員会の三者で協議を行い、土盛り工法に変更したため遺構確認面を掘削する排水路部分（５×90m）のみの調査を行うことで合意した。その後、県・町間で協定書の協議に入り、５月20日付けで締結に至った。費用は、県農政90％（126万円）、町10％（14万円）の割合。

その後、５月23日付け玉名耕第651号で県知事から57条の３の埋蔵文化財発掘の通知が出され、それを受けて三加和町土地改良区の承諾を得て、６月４日付け三教社第285号で文化庁長官宛てに98条の２の埋蔵文化財発掘調査の報告を提出し、６月９日から調査を開始した。

第2節　調査組織

調査主体　　三加和町教育委員会
調査責任者　今村　憲夫（教育長）
調査事務　　小山　　暁（社会教育課課長）
　　荒木　和富（社会教育主事・参事）
調査員　　黒田　裕司（社会教育課参事）
発掘作業員　井上　晃一・井上　京子・井上　美津子・井上　洋子・中島　光子
遺構実測　　文化財環境整備研究所
空中写真撮影　同　上
調査指導　　松本　健郎（熊本県文化課主幹）・江本　直（同参事・試掘調査）・
　　古城　史雄（同参事）・古森　政次（同参事）
調査協力　　熊本県玉名事務所耕地課・三加和町土地改良区・㈱熊野組・松尾　憲政
　　（三加和町建設課）・山本　和則（同）

第3節　調査経過

平成8年
11月22日　試掘調査実施。
　　薬師堂裏から、柱穴や土壙を検出。
平成9年
6月9日　調査開始。しかし、本日梅雨入りのため、朝から雨。そのため、器材を搬入し、これからの調査方針について作業員に説明。
　　3筆の水田に分かれているため、調査区をⅠ～Ⅲ区として調査を行うこととした。
10日　Ⅰ区から表土剥ぎを開始。
　　わずかの柱穴と溝状遺構を確認。北西隅からは集石も確認
11日　Ⅱ・Ⅲ区の表土剥ぎを行う。
　　Ⅱ区は、礫層（地山）がすでに現われておりガチガチの状態で、遺構は、全く確認できなかった。
12日　Ⅲ区からは、わずかに柱穴が検出されたが、試掘で確認されたようなはっきりしたものではない。
　　国土座標を松尾憲政・山本和則（三加和町建設課）に出してもらう。

13日　Ⅰ・Ⅱ区の境からも集石を確認。

16日　Ⅰ・Ⅱ区の境の畦を除去し、集石の広がりを確認する。

幅約１ｍで、調査区を南北に縦断している模様。溝を石で埋めている可能性も考えられた。

17日　集石に混じって磁器類・すり鉢なども出土。北東－南西方向に走る集石も確認された。

県文化課から古森政次氏視察。近世の排水溝でいいのではないかとの見解であった。

緑小学校探険クラブ見学（８名）。

18日　Ⅰ区の柱穴を掘ったが、いずれも浅く、つながりは全く見られない。

排水溝と切り合うように確認された溝状遺構の中にも小石が散在している。

Ⅰ区北西隅で確認された集石は、西側にまだ延びているため、調査区を拡幅する。

19日　排水溝に詰まっている石とは異なり、かなり大きめの石が混じっている。中には、部分的に木杭も打ち込まれている。現段階では、どのような遺構か不明であるが、作業員の話では池のように水を貯めて野菜を洗ったり、洗濯をしたりする「ホリ跡」ではないかということである。

23日　昨日の雨で、かなり水が溜まっていたので排水作業を行う。

24日　水が引かず、作業中止。

25日　「ホリ跡」の発掘を継続する。周囲には、ほぼ等間隔で木杭が打ち込まれている。

26日　Ⅲ区で遺構の再確認を行い、10個の柱穴を確認した。その後、発掘したところ１個だけから柱痕跡を確認。

27日　「排水溝・ホリ跡」実測の打ち合せ。

７月11日　６日から大雨・洪水警報が出たままで降り続いた大雨のため、現場は完全に水没状態になり、作業は当分困難となる。

14日　一週間振りに晴れ間がのぞいたが、以前として水没状態。来週から空中撮影の準備に入り、その後実測・測量にかかる予定。

22日　文化財環境整備研究所と空撮についての打ち合せを行う。24日に全体清掃、25日に基準杭打ち、26日空撮、28日から断面実測を行うようにする。

24日　台風９号が接近しつつあり週末には風が強まると思われるので、空撮を延期したいとの連絡が入り、清掃を来週に延期する。

25日　空撮のための基準杭打ち。

28日　空撮のための全体清掃を行う予定だったが、朝から雨で作業ができず、明日に延期。従って、空撮も一日延期することになる。

29日　空撮のための全体清掃を行う。

31日　空撮を行う。

8月1日　遺構実測終了。

第1図　調査区周辺地形図

第Ⅱ章　遺跡の立地と環境

第１節　遺跡の立地

三加和町は、熊本県の北端に位置し、東は山鹿市および鹿本郡鹿北町、南は玉名郡菊水町、西は玉名郡南関町および福岡県山門郡山川町、北は八女郡立花町と境を接し、西より和仁川・十町川・岩村川と３本の川が南流して、菊池川に流れ込んでいる。東西6.4km、南北7.25kmに広がる面積60.48km²の町で人口約6,000人の閑静な農山村である。

遺跡は、役場のすぐ横を流れる十町川の右岸に形成された河岸段丘上に形成されており三加和町で最も高い中嶽（242.3m）から北東方向に延びる尾根の裾部にあたる。

熊本県玉名郡三加和町大字板楠字丸田に所在し、国土地理院発行２万５千分の１の地形図『関町』の北より12.1cm、東より0.05cmの地点を中心に位置している。

第２節　歴史的環境

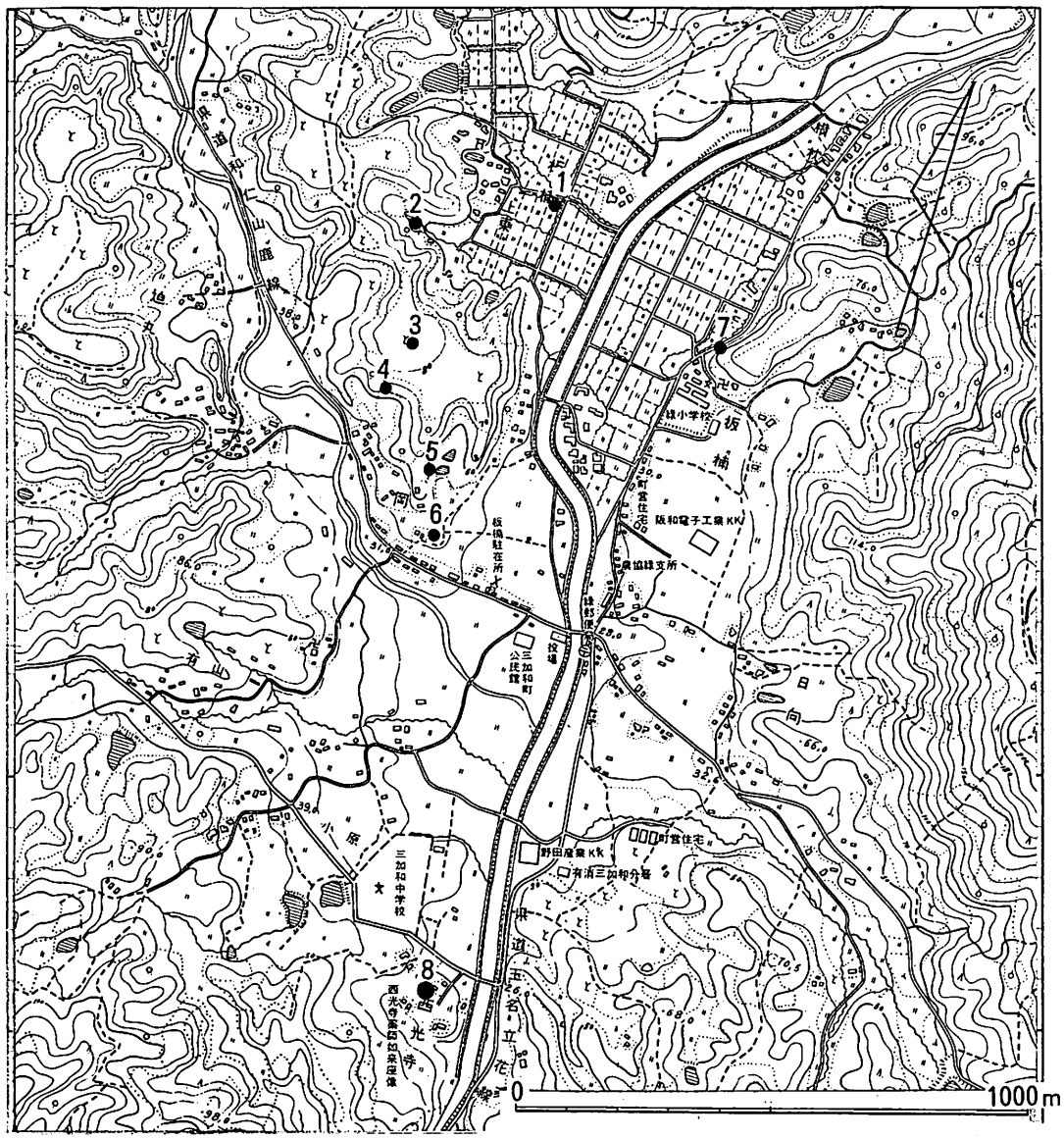
「三加和町史」の編纂作業の一環として町内の悉皆調査を実施したところ、これまで周知の遺跡としてあがっていた数の倍近くまで増加した。しかし、西光寺周辺での新発見はなく最も近い遺跡でも約１kmも離れており、役場周辺に集中している。

十町川を少し上った、役場の北東側にある丘陵上には岡原城跡があり、この丘陵の崖面には、岡横穴群（３基）・陣内横穴群（２基）がある。岡原城跡は、天文年間板楠豊後守平景貞とその子景次などが在城し、天正十五年（1587）の国衆一揆の際、城主景次が降伏し、落城したといわれている。横穴群は、この他緑小学校近くに桜町横穴群（３基）も見られるが、いずれも未調査のため詳細についてははっきりしない。また、この近くには以前、墳丘を持つ古墳も３基あったということだが、昭和56年の圃場整備で消滅したそうである。三加和町には、現在墳丘を持つ古墳は全くないため貴重な遺跡が失われたことになる。岡原城跡の裾部には、岡と上東区に六地蔵も建っている。岡の六地蔵には、奉造立六地蔵菩薩檀那平景貞、景次その他数十名の法名が刻んであり、上東の六地蔵には、奉建立文政三歳（1820）正月吉日陶山鞆エ門講中と刻まれている。上東区にある上板楠神社の裏参道には、長さ約3.5m、幅約２mの小さな眼鏡橋が架けられている。架設時期についてははっきりしないが、文政あるいは天保頃の可能性がある。

第３節　西光寺の歴史

(1)　西光寺の歴史

西光寺は、三加和町大字板楠字丸田に所在した曹洞宗の寺院である。『肥後國誌』には「額ニハ威徳山トアリ、或記、医福山禅洞家、府ノ流長院末寺西光寺村ニアリ、行基開基



第２図　周辺遺跡分布図

番号	遺跡名	所在地	備考
1	上東の六地蔵	上板楠字宮前	寛建立文政三歳(1820)正月吉日陶山楠エ門講中と刻まれている
2	上板楠神社の眼鏡橋	〃　〃	上板楠神社の裏参道の池に架けられている。文政・天保のころの架設か?
3	岡原城跡	〃　岡原	天文年間板楠豊後守平景貞とその子景次などが在城したといわれる
4	岡の横穴群	〃　岡	３基
5	陣内横穴群	〃　陣内	２基
6	岡の六地蔵	〃　岡	寛造立六地蔵菩薩塚郡平景貞、景次その他数十名の法名が刻まれている
7	桜町横穴群	板楠字桜町	３基
8	西光寺跡	〃　丸田	県指定薬師如来坐像を安置した薬師堂がある

第１表　周辺遺跡一覧表

ト云伝レトモ建立ノ年代不詳、本尊薬師仏ハ即チ行基ノ作ト云、行基一木ヲ以テ薬師ノ像三躯ハ南関ノ西福寺ノ本尊筑後国瀬高談議所ノ本尊及ヒ当寺ノ本尊ナリト云、天文年中天叟和尚（或説船翁和尚）在住ノ時禅刹トス、此時郡主ヨリ仏殿方丈等ヲ再興シ、且寺領寄附ノ旨寺記ニ出タリ、其後衰幣ニ及ヒ寛文二年純長ト云僧（或記流長院四世船翁和尚ト云）再興シ、即チ流長院ノ末寺ニ属ス、年貢免許ノ地ナリ」とあり、建立の年代ははっきりしないが、行基の開基とされている。また、本尊の薬師像も行基の作とある。しかし、行基が活躍した時代と薬師像の年代にはズレが見られるので定かでないというのが妥当であろう。その後、盛衰を繰り返しながら存続していたが明治六年（1873）に廃寺となった。

現在の寺跡は、本堂推定地が荒地となっており、その北側に代々の住職の墓が四基と一字一石塔が残っている。この内の一基は、三段の台石の上に長楕円形の棹石を置き、その上に笠石と宝珠を乗せて五輪塔型にしており、高さ約2.8mの非常に立派な墓である。また、数年前に石塔の傾きを修正した際に一字一石が出土したといわれ、一字一石塔が建てられている。

本尊が安置されている薬師堂は、この場所の西側に位置しており、元旦にだけ開扉される秘仏として地元の人々により守られてきている。昭和41年1月31日には、本町初の県指定有形文化財となっている。

(2) 薬師如来坐像

薬師如来坐像については、詳細な調査がまだ行われていないため、平成2年3月に設置した文化財案内板の内容を記しておく。

熊本県指定有形文化財［昭和41年1月31日指定］

木造薬師如来坐像　　一躯

三加和町西光寺薬師堂安置

桧材　一木造　彫目　もと素木像

像高　約84cm

造像年代　平安時代後期

本像は、毎年元旦にだけ開帳される秘仏である。構造は、頭［とう］・体幹部［たいかんぶ］と通して桧［ひのき］の縦一材から彫出し、膝前に横一材を矧［はぎ］つける。一般に此のくらいの大きさになると、両肩から外側には別材を矧ぎつける場合が多いが、両肩から肘［ひじ］までの部分が体幹部と同一材から彫り出されているのは珍しい。なお、右手は肘から先が後補「こうほ」で手首から先はさらに新しく、左手も腕から先が後補である。

頭部は肉髻部［にっけいぶ・頭の上の碗を伏せた様な膨らみ］が大きく、螺髪［らはつ・頭髪の巻毛を表す粒々］は小粒でよく整い、髪際線［はっさいせん・生え際の線］は軽

く上にカーブする。顔面部は、眉・目・鼻・口等の表現が一見稚拙で、耳の形も異様でやや朴訥に見えるが、口脇の深めの彫り込みなどは、平安初期密教彫刻の厳しい表情に倣ったものであろう。姿勢は背筋をぴんと延ばし、頭部は顎を少し突き出し加減である。三道は下にいくにしたがって前にせり出し、胸・腹と下がるにつれて前後の厚みを増し、さらに、膝の幅に対して奥行きが深いなど、威厳に満ちた姿勢をしている。衣の襞［ひだ］は浅く平行線状に彫られ、翻波式衣文［ほんぱしきえもん・平安時代前期に流行した幅の広い、ゆるやかな波と小さな鋭い波を繰り返す方式］の名残を留める。以上のように、本像は平安後期の特徴をよく示し、この地方の希少な平安仏として注目される。

さらに、顔や胸などの肉身部分の金箔や衣の一部に残る彩色は後補と見られ、造立当初は素木像であったと思われるが、一般に、神像の様に秘仏扱いをされたり、素木のままの薬師像には呪術的威力［じゅじゅつてきいりょく］が込められたとされるので、本尊の場合も、厳しい表情、威厳に満ちた姿勢、一材から彫り出した頭体幹部の木取り法等を考え合わせると、単に除病・息災・延命といった通常の薬師として以上に、特別な呪術的威力が期待された薬師像［いわゆる七仏薬師像か］であったことが考えられる。その様な遺品としては県下で最古の部類に属し、県下の薬師信仰の歴史を考える上で最も重要視される像である。

また、厨子［ずし］の外側に出されている天部像［てんぶぞう］の内やや大きめの虫食いのひどい四躯の像は、寺院などを守護する四天王像［してんのうぞう］で、平安末から鎌倉時代の作と目される。小さな像は十二神将［じゅうにしんしょう・薬師如来の眷属］で江戸時代の作。中に江戸時代の不動明王もある。

第Ⅲ章　調査の成果

第１節　試掘調査の成果

１．試掘調査の概要

試掘調査は、平成８年11月22日に熊本県教育庁文化課により実施された。江本直参事が担当し、水田の中央部に幅1.6ｍで南北に19.5ｍ、東西に39.2ｍのトレンチを十文字に重機で入れ、遺構・遺物の有無等を確認した。耕作土を約15㎝除去すると、礫が混じった黄褐色土が現われ、この面から柱穴・土壙が確認された。柱穴は７個確認されたが、大きさは長径が30㎝強、短径が30㎝弱のほぼ円形であり、深さは30㎝前後であった。また一辺約２ｍの土壙も２基確認された。

この試掘調査の結果、文化課から遺構確認面に工事がおよぶ場合には、本調査が必要と

の通知があった。

2．出土遺物

土師器の小片が若干出土しただけであった。

第2節　本調査の成果

1．調査の概要

試掘調査の結果、本調査が必要となったが、調査範囲については盛土措置をとればその部分に関しての調査の必要はないため、その旨を町農林振興課に説明し県玉名事務所と協議してもらった。その結果、県文化課から本調査の必要を指摘された部分については、盛土工法に設計変更してもらうことになった。しかし、指摘地の東・北側にはどうしても排水溝を回す必要があるとのことで、その部分（5×90m＝450㎡）だけの調査を行うこととした。

調査地は三筆の水田に分かれているため、南側からⅠ・Ⅱ・Ⅲ区とし、Ⅰ区から調査を始めた。表土は、床土部分を圃場整備の工事に先立ち㈱熊野組に剥いでもらったため、遺構確認作業から入った。

Ⅰ区は、残っていた床土をひと剥ぎすると遺構が確認された。南西隅と東側の二ヶ所で確認された多数の小石からなる集石で、東側の集石は排水溝、南西隅の集石は地元で「ホリ」と呼ばれている池状の水溜めと思われる。

Ⅱ区は、床土を剥いだ段階ですでに地山の礫層が現われており、表面観察で遺構の確認はできず、精査しても遺構の確認はできなかった。

Ⅲ区は、試掘調査を行い柱穴が確認された水田のため遺構の確認が期待されたが、柱穴が若干確認されただけであった。

この後、Ⅰ区で確認された「ホリ」がもう少し南側に延びていると思われたため、調査区を拡大して確認し、調査を終了した。

2．遺構と遺物

(1)　遺　構

①排水溝（第4図・別添）

Ⅰ区の東側から確認された遺構で、南北方向と北東－南西方向に走る二本が確認され、南側で交差して調査区外へと続いている。

南北方向に走る溝は、幅約1.1m、深さ約20cmで拳大の小石がギッシリと詰まっている状態である。北東－南西方向に走る溝も同規模であるが、交差部分近くでは大きめの切り石が並べられており、排水溝の側石の一部と考えられる。南北方向に走る溝も下部は同じ状態であった可能性があるが、側石を思わせる大きめの石は、抜き取られたのか全く確認

できなかった。

②ホリ跡（第５図・別添）

Ⅰ区の南西隅で確認された長径約６ｍ、短径約４ｍ、深さ約40㎝の不定形遺構で、中には排水溝と同様にビッシリと石が詰め込まれていた。石の大きさは、排水溝とは異なり、大きな石を用いて大まかに埋めたあと、小さな石で間を塞いだように思われる。

③柱穴

Ⅲ区の中央部から柱穴が10個確認された。しかし、試掘調査で確認されたような径が30㎝にもおよぶ大きな柱穴は１個だけで、あとは径も小さく、深さも10㎝以下の浅いものであり、並び方に規則性もなく、構築物を想定できるようなものではなかった。

(2) 遺　物

近世の遺物が若干出土したが、Ⅱ・Ⅲ区さかいの畦部分には、耕作の際に出てきた近・現代の陶磁器類が積み上げられており、調査においても同じように近・現代のものを中心に出土した。

第Ⅳ章　ま　と　め

町内で初めての、圃場整備に伴う発掘調査であった。

熊本県文化課による試掘調査で、径約30㎝の柱穴・一辺約２ｍの土壙などが確認され、西光寺跡関連の遺構ではないかと思われた。これまで、県指定の薬師如来坐像が納められている薬師堂があるだけで、他には何も分からないというのが実状であっただけに、本調査に期待が持たれた。しかし、調査日程の問題などから盛土工事への設計変更を協議し、了解を得たため、排水溝部分のみの調査となった。そのため調査区は、幅５ｍ×長さ90ｍ＝450㎡の範囲に絞り込まれた。現況で、三筆に分かれていたため南側からⅠ・Ⅱ・Ⅲ区として調査を行った。

調査の方は、事前に表土剥ぎを㈱熊野組に行ってもらっていたため、遺構確認作業から入ったが、Ⅱ区はすでに地山の礫層が現われており遺構は全く確認できなかった。また、Ⅲ区を設定した水田からは試掘の際に、径約30㎝の柱穴が確認されていたが、同規模の柱穴は調査区からわずかに１個しか確認できなかった。Ⅰ区では、遺構確認作業を進めると集石が二ヶ所で確認された。排水溝と地元で「ホリ」と呼ばれている池状の水溜めと思われた。いずれも廃棄する際に、石によって埋めているように見れる。排水溝は、部分的に残っている側石と小礫の広がりから推定すると、掘り方の幅約1.1ｍで、両側に約15～20㎝の間を取り、約20㎝の切り石の側石を並べ、中央部に40㎝程度の排水部を設けているよ

うである。「ホリ」と呼ばれる池状の水溜めは、長径約6m、短径約4mの隅丸長方形をしており、排水溝遺構とは異なって大きな石で埋められている。地元の人の話では、野菜や食器などを洗ったりするために水を貯めていたものだそうで、石の間に詰まった土を除くと水が滲みだし、アッという間に溜まってしまい、雨が降った翌日などは、一帯は水浸しとなってしまった。排水のための施設なども作られていたと思われるが、確認までには至らなかった。これらの遺構の時期については、石の間に近世陶磁器類が含まれていたがその下部からセメント瓦など現代の遺物も出土し、また、戦後まで数件の家屋が建っていたということでもあるので、大正から昭和にかけての遺構と判断したが良さそうである。

西光寺に関係ある遺構としてはⅢ区で確認された柱穴しかないが、前述したように試掘調査で確認された柱穴と同規模のものは1個しかなく、構築物を想定するまではいかなかった。地元のわずかな人々だけで守り続けられている薬師堂だけしか現存していないため少しでも西光寺の解明をと思っていたのだが、何らかの関連施設があっただろうという程度しか分からなかった。現地には、薬師堂や住職の供養塔などがわずかに残るだけで、勧請された年代や寺域などについては全く分かっていない。以前、供養塔が木の根で傾いた時に、下の方から「一字一石経」が多数出土したということだが、現物の所在が確認できない状態では何ともしがたい。今後、もう少し広い範囲の調査を行う機会を待たねばならないだろう。

報告書抄録

ふりがな	さいこうじあと
書名	西光寺跡
副書名	県営板楠地区担い手育成基盤整備事業に伴う発掘調査
巻次	
シリーズ名	三加和町文化財調査報告
シリーズ番号	第１３集
編著者名	黒田裕司
編集機関	三加和町教育委員会
所在地	〒861-09　熊本県玉名郡三加和町大字板楠７６　TEL 0968-34-3111　内線55
発行年月日	西暦　１９９７年9月３０日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
さいこうじあと 西光寺跡	くまもとけんたまなぐん 熊本県玉名郡 みかわまちおおあざ 三加和町大字 いたくすあざまるた 板楠字丸田 1055, 1057 1058	43366		33度 3分 22秒	130度 37分 29秒	19970609 ～ 19970731	450	圃場整備事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
西光寺跡	寺院跡		柱穴・排水溝・ホリ跡		西光寺に関すると思われる遺構は柱穴のみで、寺域などを確認するまでには至たらなかった。

写 真 図 版

調査区周辺

図版2

(1)調査区全景（西より）

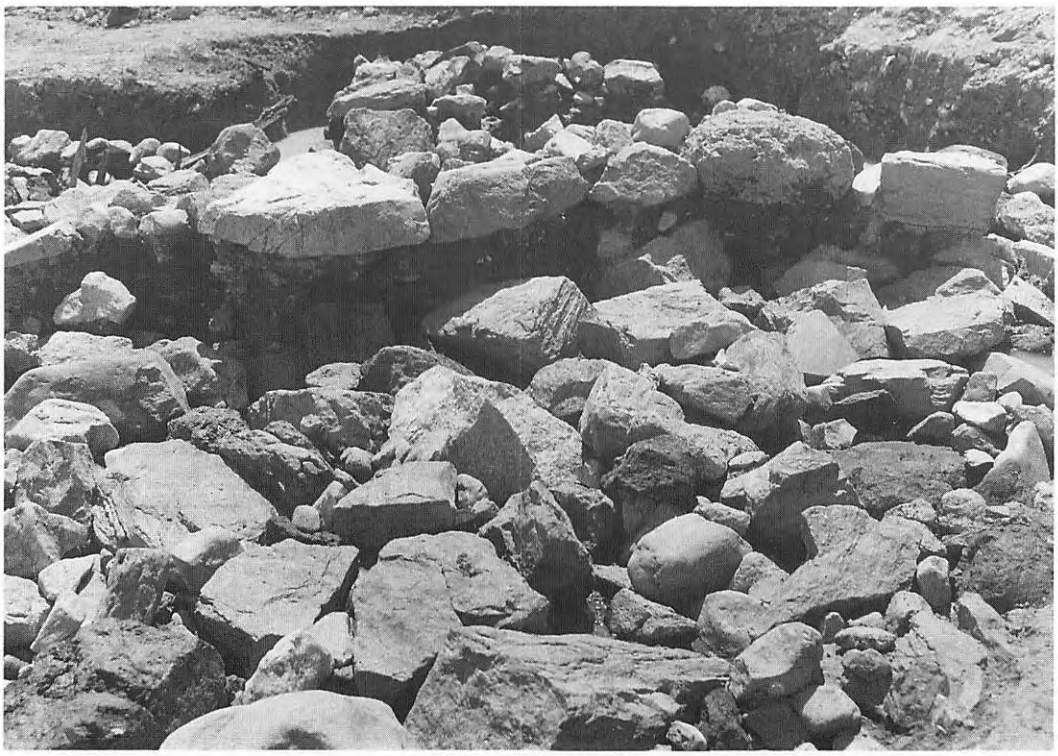
(2)遺構検出状況

(1)排水溝検出状況

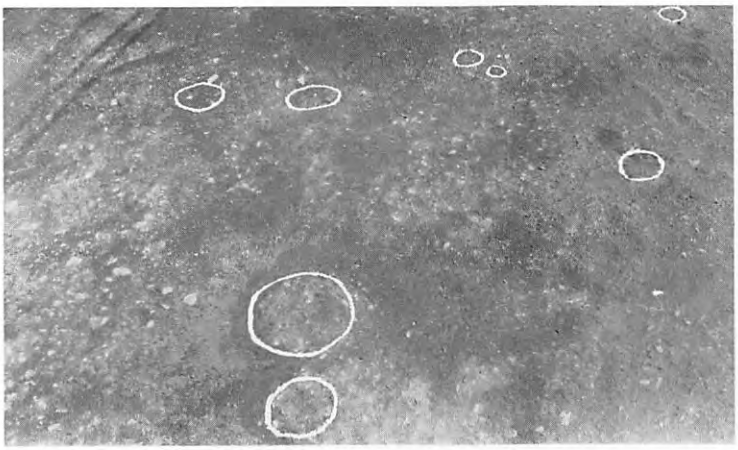
(2)排水溝埋め石近景

図版4

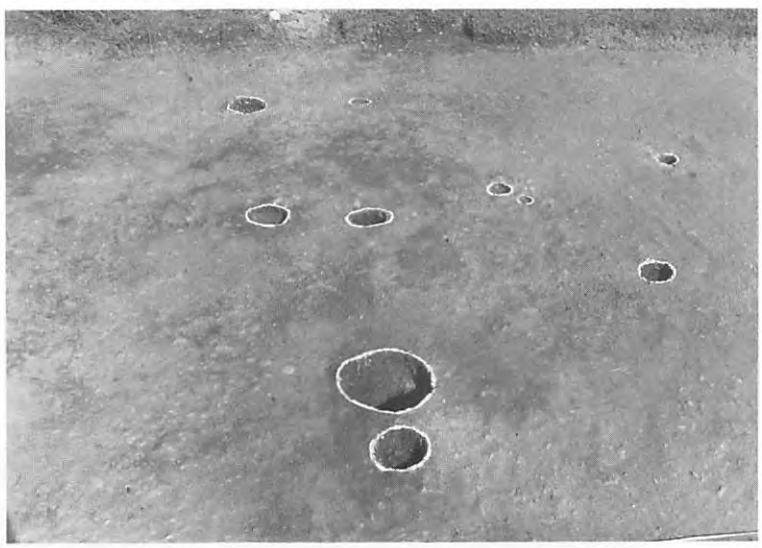
(1)ホリ跡検出状況



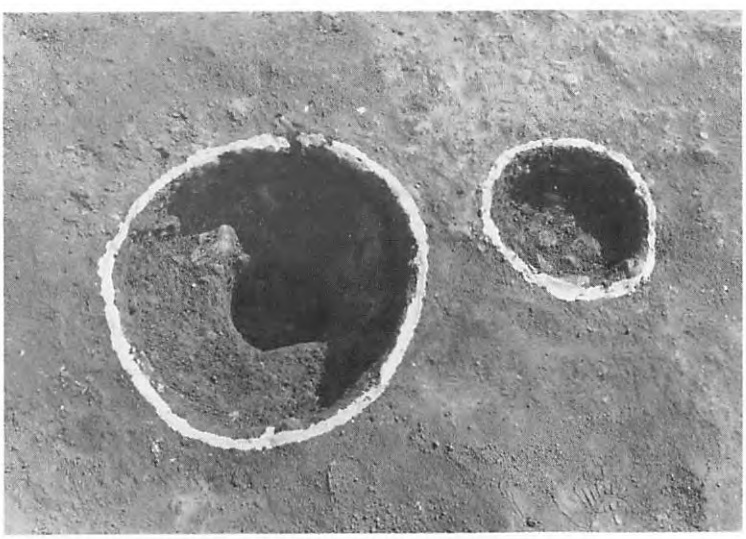
(2)ホリ跡埋め近景



(1)柱穴検出状況



(2)柱穴発掘状況



(3)柱穴発掘状況近景

図版6

(1)薬師如来坐像

(2)和尚供養塔

（あとがき）

本来なら、この報告書に遺物の実測図も載せるところですが、調査が終わり報告書作成に取りかかった矢先に不慮の事故に遭遇してしまい、期日の関係で止むを得ず省くことにしました。関係各位には、いろいろご迷惑をお掛けし申し訳ありません。

（黒　田）

三加和町文化財調査報告　第13集

西光寺跡

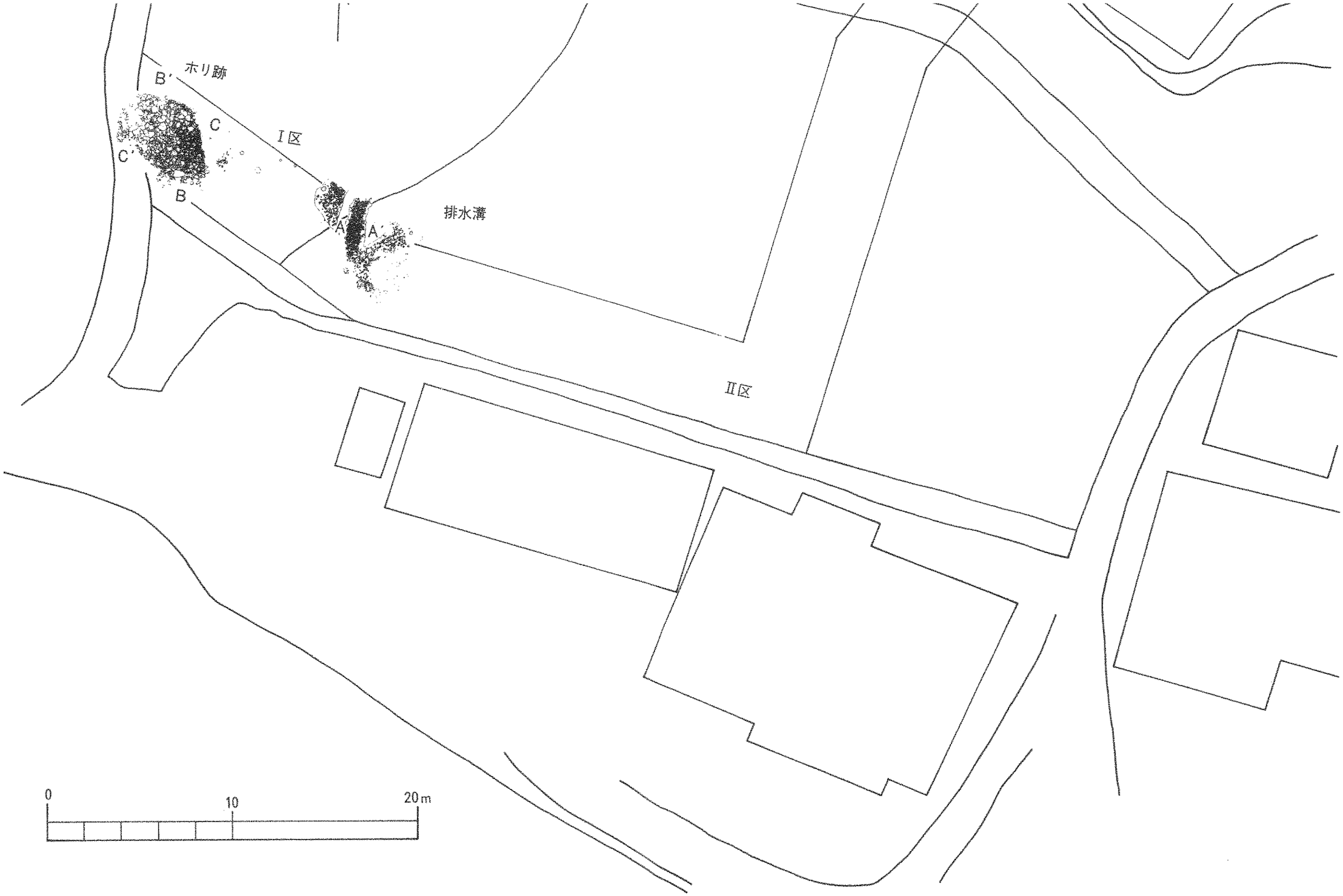
～県営板楠地区担い手育成基盤整備事業に伴う発掘調査～

1997年9月30日

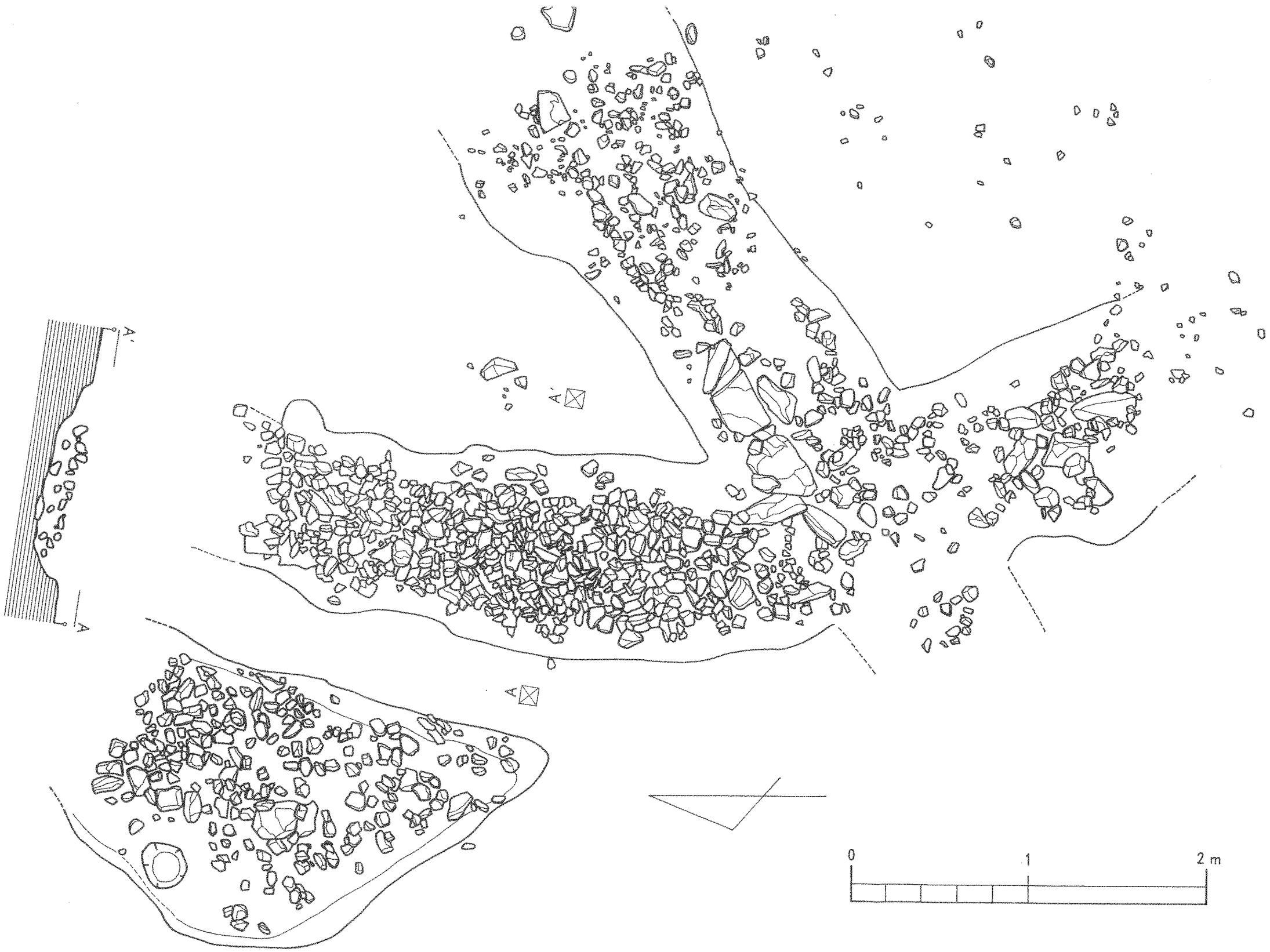
発　行　三加和町教育委員会
〒861-09
熊本県玉名郡三加和町板楠76

印　刷　熊本県印刷センター
〒862　熊本市鹿帰瀬町496-1

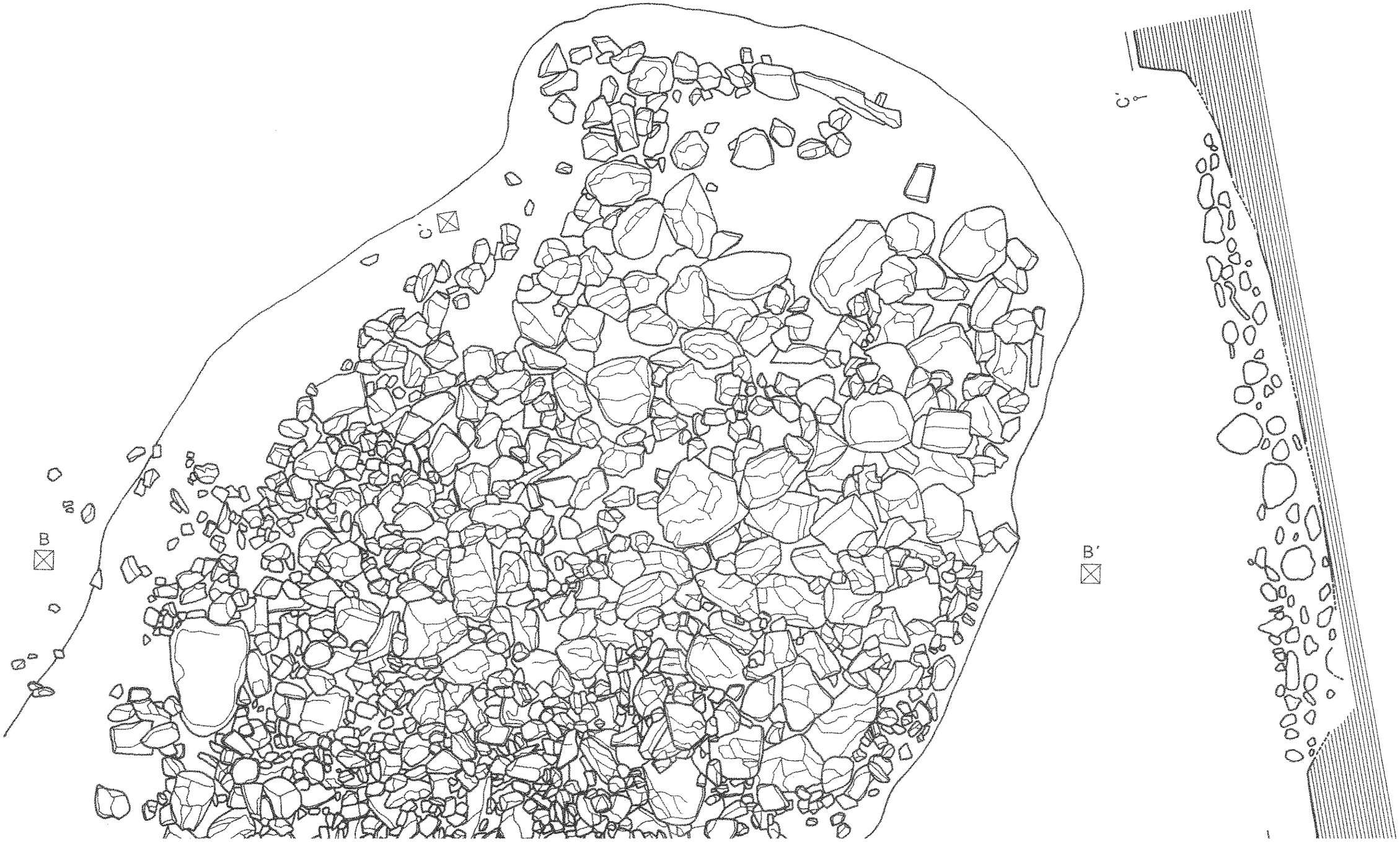
薬師堂
基準点
Ⅲ区

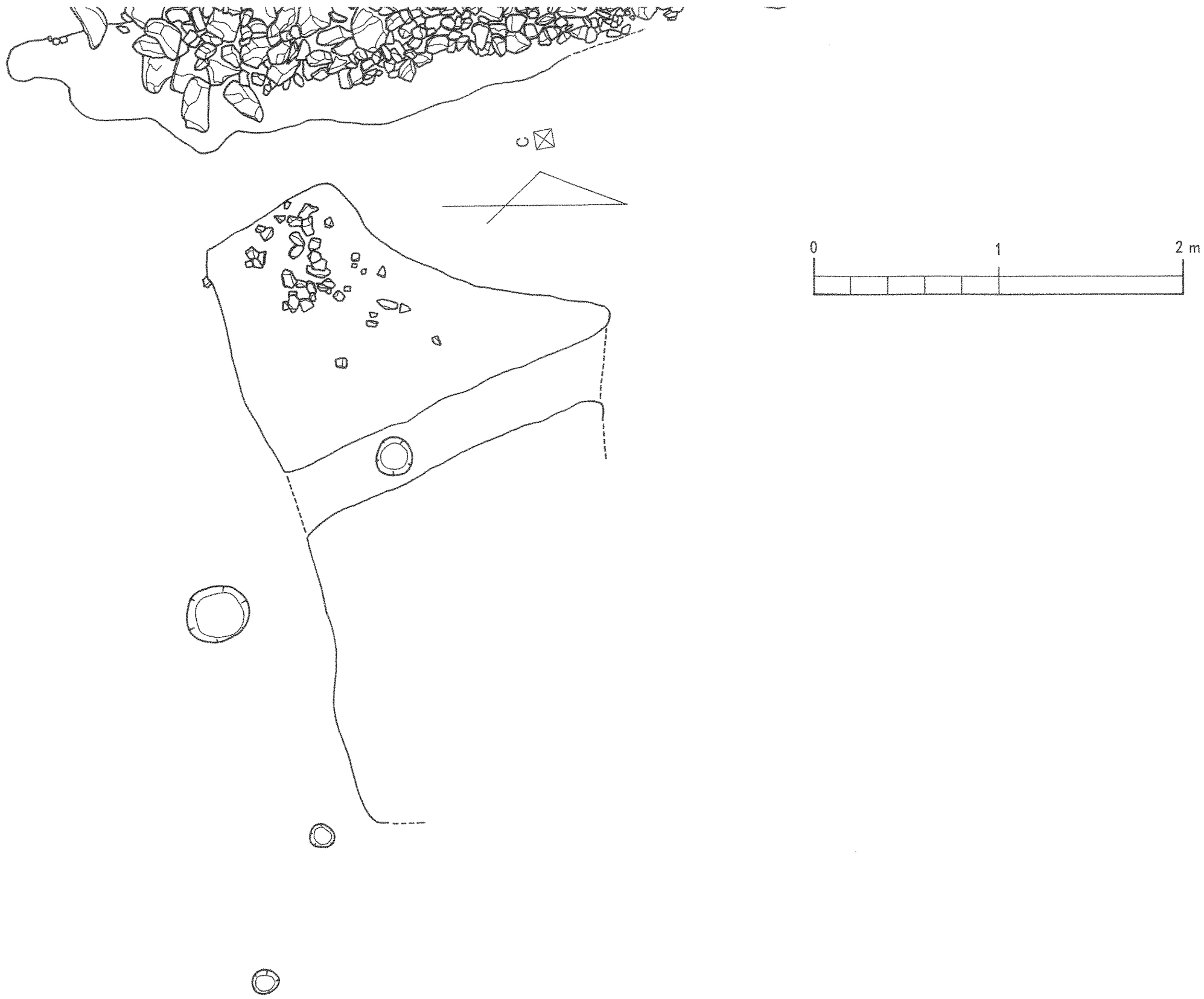


第3図　遺構配置図



第４図　排水溝実測図


B
B'
C
C'



第５図　ホリ跡実測図

この電子書籍は、三加和町教育委員会が発行した『三加和町文化財調査報告 第 13 集 西光寺跡』を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

菊水町と三加和町は、西暦 2006 年に合併して和水町となりました。調査記録及び出土遺物は、和水町教育委員会が保管しています。

書名：三加和町文化財調査報告 第 13 集 西光寺跡
発行：和水町教育委員会
〒861-0913　熊本県玉名郡和水町板楠 76 番地
TEL　0968-34-3047
電子書籍製作日：2024 年 2 月 28 日